
とある魔術の鍵使い

どるじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある魔術の鍵使い

【Nコード】

N7189Z

【作者名】

どるじ

【あらすじ】

いつもの洞窟に、落ちていた一冊の本。それを見た直後、光が溢れだし、ソラは気を失ってしまう。目が覚めるとそこはまったく知らない別世界で

！

とある魔術の禁書目録の世界に、KHのソラが介入する物語。基本的に原作寄りだけど、オリジナルも多々あり。KHのキャラはソラ

しか出ない……予定です

始まりの物語（前書き）

ゆっくり更新して行きます。生暖かい目で見守って下さい（汗

始まりの物語

ソラ達がゼムナスを倒して二週間が経ったある日。

「…これでよし、っと」

キーブレードに選ばれし少年、そして世界を二度も救ったソラは、自室で支度をしていた。無論、旅に出るためのである。王様から届いた手紙には、準備が出来しだいこちらに来てくれ、と記されていた。すぐに行きたかったソラであったが、カイリに

「…もうちょっとだけ、傍に居させて」

なんて言われてしまったからには残らざるを得ない。それを見てリクは苦笑していたが。そんなことを考えながら、旅支度を終えたソラ。うーん、と大きく伸びをして

「…最後に、行こっかな」

そう呟くと、まとめた荷物を持って、部屋を出た。

やってきたのは、昔からの遊び場である小島。リクとカイリにも声をかけようとしたが、やめた。なんとなく一人で来たかったのだ。くるりと島を一周し、思い出に耽るソラ。そして、一番思い出深いであろう洞窟へとやってきた。様々な落書き。中央には、パオプの実を食べさせあうソラとカイリの絵。それを見て柔らかい笑みを浮かべ、壁伝いに歩いていると

「……ん？」

何か足に当たった。下を見ると、古びた本が一冊。

「…誰かの落とし物かな？」

それを拾い上げる。表紙には何も書かれていない。何気なく、ソラはその本を開いた。開いたページには、何か書かれていた。それを読む

「君は、この世界を知っているか……？なんだこれ？」

首を傾げたソラ。その途端、急激に本が光を放ち、洞窟全体を明るく照らす。

「な、なんだ!？」

あまりの明るさに、目を瞑るソラ。やがて光が洞窟の中を白一色に染めあげる。

光が消えたとき、そこにソラの姿は無かった。あるのは開かれた一冊の古びた本。そこにはこう書かれていた

鍵の勇者よ、ならば教えよう。この世界の秘密を

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7189z/>

とある魔術の鍵使い

2011年12月23日23時51分発行